

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

# ときめき Fukuoka

2024.7  
No. 276



## 平時の取り組みが、有事の備えに — インクルーシブ防災訓練実施 —

- 05 福障協だより「令和6年第17期定期総会開催」
- 07 身障協だより「災害を通して真の共生社会へ」
- 10 令和6年度 福岡市身体障がい者相談員辞令交付式及び第1回研修会の開催
- 11 7月・8月の企画展示情報～福岡市介護実習普及センターより～

# 香椎下原校区

## 平時の取り組みが、有事の備えに — インクルーシブ防災訓練実施 —

インクルーシブ防災とは、「障がい者や高齢者を含むあらゆる人を取り残さない防災」という考え方です。

福岡市東区にある香椎下原校区。ここは、7,600世帯、人口14,800人が住む、海にも山にも近い風光明媚な地域です。交通アクセスも良く、博多駅や天神へもスムーズに行けることから、ここ10年ほどで600世帯一千名もの住民が増加した市内でも有数の人口増加校区です。

今回は、香椎下原校区が福岡市と実施した「インクルーシブ防災訓練」についてご紹介します。

福岡市（地域防災課）では、自治協向けに令和3年度から「個別避難計画」作成を支援するためワークショップを開催。令和5年度にはモデル的に各区一校区でインクルーシブ防災訓練を実施しました。

そして今年度は本格的な実施の第一回目として、香椎下原校区で実施する運びとなりました。

この訓練の目的は、災害時の避難

行動要支援者への声かけや避難の支援方法について学ぶとともに、個別避難計画に基づく避難所までの避難を支援者と要支援者の双方で実施することにより、計画の実効性を確認し有時に備えるものです。

今回は台風接近という想定で、要支援者を避難所まで誘導する内容でした。香椎下原校区自治協議会へお話を聞きました。

- 校区 自治協議会会長、社会福祉協議会会長 野中 民生様
- 校区 地域を守る会防災部会会長 原口 光雄様
- 校区 民生委員児童委員協議会副会長 藤本 陽子様
- 校区 民生委員児童委員協議会会計 中久美子様
- 校区 社会福祉協議会総務、会計 荒牧 麗子様

### 要支援者名簿の登録状況は…

野中 香椎下原校区自治協議会で、要支援者名簿に登録されているのは、令和5年3月時点で160名です。

年に二回、社会福祉協議会が実

施している「ふれあいネットワーク研修会」の中で、自治協、民生委員が参加し、町内毎に要支援者のサポート態勢を確認します。これは、要支援者160名について見守り担当者を定めていくというものです。

更に見守りマップを作って、この要支援者に対してはどの協力員と、どの民生委員が支援するかを誰もが見て分かるようにして、普段から見守り活動を取り組んでいます。

要支援者名簿は、ご本人の同意や申請がないと登録されません。ふれあいネットワーク研修では名簿に登録されてなくても、気掛かりな方に対しては見守り担当者を定めています。つまり要支援者名簿+αで取り組んでいます。

また、民生委員は年に2回ふれあい訪問を行い、一人暮らしの高齢者のお宅や、障がい者が家族にいます。





「住民の防災の意識が高い」と語る野中会長

**地域の皆様の防災への理解は…**

**野中** 今回の防災訓練は、福岡市市民総合防災訓練として、インクルーシブ防災訓練<sup>①</sup>が行われました。具体的には、当日民生委員と協力員（お隣等のご近所の住人）が、要支援者の安否確認を電話で行い、避難希望の設定で、避難所（香椎下原小学校）まで避難誘導しました。この時民生委員、協力員に加え地元の仕事所ネットワーク（下原ともづくりの輪）の協力のもと、近隣の病院に勤務している作業療法士等とで誘導がなされました。

例年、校区の防災訓練は実施していませんが、今回のインクルーシブ防災訓練への参加希望者は多かったです。

また、こうした大規模な防災訓練とは別に、ある町内会は独自で防災

訓練を実施しているところもありますので住民の防災への意識は高いものと思われれます。

我々の校区は高台が多く起伏が多くなる地形ですので、イエローゾーン66カ所（レッドゾーン60カ所を内包）もありますから、皆さん意識が高いのでしょうか。

**防災訓練をする上で工夫されていることはありますか？**

**原口** 防災部では、毎回様々な趣向を凝らして訓練を実施しています。消防士OBよりアドバイスを受け内容を变えています。設営も必ず入れています。それは例えば、人を搬送するための手作り担架の実習やツナ缶を使ったランプづくりなどです。

**防災訓練後の地域の方からの反応は？**

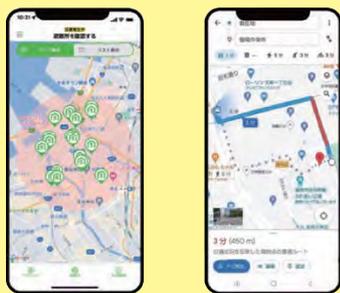
**原口** 特に感想を集めていませんが、ある町内からは、市が開発した防災アプリ「ツナガル+（プラス）」のパンフを町内会で配るから30部欲しいという依頼があったり、個別に話しを聞いてみると「良かった」との声を聞くことができました。防災への意識の底上げに繋がったと感じ、実施して良かったと思いました。

**支援者名簿や個別避難計画の普及の上で課題と思われることは…**

**野中** 安否確認をして分かったことですが、登載されている情報と違う点がありました。それは要支援者名簿の住所に対象者が居ず、施設に入所されていたり、家族のもとに引き取られていたりしたこととです。名簿の情報と実際が異なっている。日頃の民生委員の活動で、ある程度は把握していますが、こうした実態を把握することができました。

**中** 要支援者に緊急連絡先を聞きたいのですが、ご家族が個人情報保護の観点からストップをかけるようです。

**藤本** ご高齢の独居の方には、「住んでいるところで、友達を一人でも良いから作って」と声掛けています。何かあったら、友達や知人から、「最近連絡が取れない」「最近見かけない」という情報が入ります。最近では町内会に入れない方が多くなっています。それでも、いざという時には、そうした方の支援にも行かないわけにはいきません。



**防災アプリ「ツナガル+（プラス）」**  
詳しくは市のホームページをご覧ください。



避難誘導訓練中



野中 民生委員は、町内会会員であるか否かに拘わらず、把握するように活動しています。

**他に考えておられることがあります。したら、お聞かせください。**

藤本 ご家族のことを堂々と聞けるのは、民生委員だと思います。まず、支援が必要と思われる方と仲良くすることを大事にしています。私の地域には、発達（？）障がい（多動性障害）の子どもさんがいるご家庭があります。定期的にご家族に会いに行きますが、時々その子どもさんにも会いることがあります。そんな時は少し話を聞いて様子を把握しています。

原口 予測がつく災害は、前もって防災対策や避難ができますが、地震はまるで予想が付きません。そんな時は、被災した方を隣近所で可能な方々が支援をしていただきたいと思います。

野中 「向こう三軒両隣」の感覚が必要だと思っています。ある町内会は年に2回、「隣組」で集う機会を作るようにと呼びかけています。最低でも、隣組はみんなお互いを知っているという関係性を築くようにされています。非常に大事なことと感

います。

福岡市地域防災課の担当者は、

「平時の取り組みが、有事の取り組みに繋がるように」と考えています。普段の取り組みが、有事に生きるからです。

今回の防災訓練が香椎下原校区で実施できたのは、地域の下地（誰が誰を見守っていくかという平時の見守り活動）が努めて整備されているところにあつたと思います。インクルーシブ防災訓練に障がいのある方、ご高齢の方にもっとご参加頂き、校区の皆様と関わって頂きたいと思

【表紙にご協力いただいたみなさん】

上段右から

校区自治協議会会長

校区社会福祉協議会会長

野中 民生 様

校区 地域を守る会防災部会長

原口 光雄 様

下段右から

校区社会福祉協議会総務会計

荒牧 麗子 様

校区 民生委員児童委員協議会副会長

藤本 陽子 様

校区 民生委員児童委員協議会会計

中 久美子 様

「協力ありがとうございました。」

